



だいじょうぶ。ともにあるこう。(2010. 7. 12)

野村 のむら ようこ 羊子

三鷹市議会議員 (会派 にじ色のつばさ)

議会報告 no.34

■6月議会 野村羊子の一般質問

1 人が生きるまちづくりについて

(1) 三鷹市男女平等行動計画について

ア 行動計画この10年間の取り組み状況について、達成状況を踏まえた総合評価をどのように捉えているのか。また、評価・検証のプロセスにどのような市民参加を予定しているのか。

イ 指標未達成の課題と課題解決への取り組みについて、特に市の率先行動である管理職の女性職員の割合の目標未達成について、職場環境の整備が必要ではないか。

ウ 男女平等施策推進の拠点となる女性センターの設置を求められている。女性交流室は様々な制約があって、施策推進の拠点となり得ていない。市民団体の思いをどう受け止め、取り組むのか。

(2) コミュニティスクールについて

ア コミュニティスクール委員会・学校運営協議会の関係性と、予算について

イ 文科省の学校支援地域本部事業を、都を通じてネットワーク大学で受託している。その評価を伺う。この事業で各学園のコミュニティスクール委員数名が参与として活動費を得ている。現実にはコミュニティスクール委員会の活動費が不十分だとの声がある。地域の人材を生かすにも予算措置の検討を。



→清原市長;今年度、アンケート調査を行い、達成状況の検証と課題の抽出を行う予定。計画策定については、市民団体の提言を受ける予定。

↳ 国が第3次男女共同参画社会基本計画策定に向けて取り上げている積極的改善処置についても訊ねましたが、答弁はありませんでした。

→清原市長;女性管理職の比率向上は早晚見られると思う。↳ 女性部長が議場にいない現状分析も含め、職場環境改善には触れず。昨年の「性別にかかわらず」より若干前進か。三鷹市の女性管理職比率は18.6%。

→河村副市長;女性交流室の利用率向上があってから、次のステップを検討。現状でのさらなる努力をみていきたい。

↳ 女性施策推進への姿勢を確認し、その拠点としての女性センター設置を訊いたが、全く無理解と判明。

→教育部長;保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校教育を支援するコミュニティ・スクールの学校作りを、より推進する事業として有効活用している。

→教育長;学校支援地域本部事業の予算を、運営費に活用できるよう国に要請した。

↳ 参与が活動助成金を参与会に寄付し、その使途が明らかにされていない点も含めて、助成金や活動費などのあり方を明朗にし、より活動しやすくすべき。



■市長提案議案は、条例改正案3件、工事請負契約3件、人事案件4件が提出され、全て可決された。

◆「大沢コミュニティ・センター本館・体育館改修工事請負契約の締結について」は、落札率が99%を超えていたため、高落札率案件の調査を求める反対討論を半田議員が行い、にじ色のつばさは反対。

■議員提案意見書は4件。提出者となった意見書はありませんでした。

◆「都市再生機構の賃貸住宅の民営化に反対する意見書」は、共同提案となり、可決。

◆「機能性低血糖症」に係る国の取り組みを求める意見書」は、嶋崎議員が賛成討論し、可決。

◆「公立保育所整備のための土地取得費への補助制度の創設及び公立保育所の運営費、建設費への国庫負担の復活を求める意見書」は、嶋崎議員が賛成討論をしましたが、否決されました。

◆「任意の予防接種に対する公費助成を求める意見書」に野村が討論して賛成し、可決。討論の内容は、子宮頸がんワクチンについて述べた上で(概要裏面参照)、「現在10%台の検診率を上げるための施策が必要であることを申し添え、(Hibワクチンや肺炎球菌ワクチン等については)所得などの経済格差によって子どもや高齢者の命と健康に格差があってはならないという趣旨に賛同し、あわせて予防接種の副作用対策を求め、本意見書に賛成する。」とした。

■子宮頸がんワクチンは、ほんとに効くの？

子宮頸がんワクチンの公費助成を求める声があります。今、本当に問題なのは何か、考えてみましょう。

子宮頸がんワクチンといわれているのは、実は HPV (ヒトパピロマーウィルス) 予防ワクチンです。子宮頸がんの原因とされる HPV は、性交渉によって 8 割の女性が 1 度は感染するありふれたウィルスです。ほとんどが自己免疫で消滅。約 1 割が継続感染し、その内の 1 割が約 10 年後に前がん状態になります。継続感染の条件等は未解明ですが、感染や前がん状態なら完治が可能。感染したらほとんどが発病する麻疹などとは違います。



今、日本では 20 代 30 代の出産可能年齢での**子宮頸がん発症が増えて**います。ワクチンによって子宮頸がんが予防できると言われていますが、残念ながら 100%ではありません。

HPV は 100 種以上あり、その内 15 種ほどががんになるとされています。ワクチンはこのうち、欧米で多い 16 と 18 型にのみ対応し、日本人に多い 52 と 58 型は未対応で、**予防率 60%**でしかないのです。

また、性交渉を経験し感染の可能性のある人には効果がないため、12 歳前後の接種が奨励されています。しかし、現在のワクチンは 6, 7 年の予防効果しか実証されていません。今、ワクチン接種して少女たちが、25 歳、35 歳の時に子宮頸がんにならない保証はまだないのです。既に感染している人の治療にもなりません。

今、発がんリスクに直面している 20 代 30 代の女性の命を救うには、何よりもまず**HPV 検査が確実**です。20 歳から 40 歳まで 5 歳刻みで子宮頸がん検診の無料クーポンがあります。しかし、自治体が行っている子宮頸がん検査は、細胞診のみで HPV 検査をしていません。細胞診と HPV 検査をセットで行えば、100%前がん状態で補足でき、完治が可能です。残念ながら、日本の検診率は 20%。肝心の 20 代は 10%ちょっと。だから、**20 歳から 40 歳の全員に子宮頸がん (細胞診 + HPV 検査) 検診を無料で行うことが重要**です。ちなみに欧米の検診率は 70%前後、ワクチン接種の前提条件が違います。

HPV 予防ワクチンは 1 人 3 回約 5 万円。HPV 検査は郵送での自己検査キットは 5 千円弱。産婦人科では 1 ~ 2 万円ですが、細胞診で採った検体の残りでも検査可能で、セットで行えば 5 千円以下で可能でしょう。限られた財源は、まず 25 歳から 35 歳全員に無料 HPV 検査を含む検診に充てて欲しい。細胞診 + HPV 検査で陰性なら、次は 2 年後の検査で OK。まずは未検査をなくす努力がひとつです。

子どもの産める年代での発がんをくい止める HPV 検査を含む子宮頸がん検診受診キャンペーンを！

■ **6/12 自治労東京第 25 回保育集会**に参加。白梅短大近藤幹生さんの話を伺う。今、政府が進める「新たな保育の仕組み」には反対という。国・自治体の責任が曖昧。保育は非営利なのに企業参入促進。結果、子どものために使われるはずの公金が株式配当になることを認める。直接契約、応益負担で保護者も事業者も負担と格差が生ずる可能性が大きい。介護サービスが本当に使いたいサービスを利用者が選べていない現状を考えると、民間参入で待機児解消は困難。保育は子どもの尊厳を預かり育てという児童福祉法や児童憲章に立て、ゼロから議論し直して欲しい。という内容。肯けることの多い話だった。

■ **ツイッター**始めました。あまりにブログ更新ができないので、twitter なら気軽に携帯からも書き込みできる、ということで始めてみました。http://twitter.com/hitujinomura で読めます。フォローしてみてください。

こちらは、わたしのつぶやきだけを、日ごとにまとめて見ることができます。http://twilog.org/hitujinomura



★予告 いっしょ広場 ★

10月10日(日) 14時~

上映会「犬と猫と人間と」監督・飯田基晴*

トーク「地域と命、共に生きることを語りましょう」

数人のゲストをお迎えし、語り合います。

三鷹市市民協働センター第 1 会議室

参加費:800 円*小学生以下、無料

(このニュースご持参の方は 100 円引き)

*一人の猫好きのおばあさんの「不幸な犬猫を減らしたい」という思いから、この映画は生まれました。



野村羊子といっしょにつくる三鷹の会 No.34

〒181-0013 三鷹市下連雀 3-30-12-104

Tel&Fax:0422-72-2425

E-mail: issyonokai@nomura-yoko.net

Url: http://www.nomura-yoko.net

*野村羊子は、議会では会派「にじ色のつばさ」、日常は市民グループ「いっしょの会」とともに活動しています。市政へのご意見、ご要望、そしてささいな疑問等、なんでもお伺いしています。いっしょに考えていきましょう。

いっしょの会 年会費 1000 円

郵便振替口座 00160-2-335606